

| 教科・科目 | 対象学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|---------|--|-----|--|--|
| 家庭・家庭総合 | 1 | 2 | 高等学校 家庭総合 持続可能な未来をつくる (第一学習社) | 家庭総合学習ノート |
| 目標 | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| | 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。 | | 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 | 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。 |
| 評価 | <ul style="list-style-type: none"> 授業の課題の内容や定期考査などの結果、実習の様子から「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。 授業の課題や実習への取り組みから「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 | | | |
| 学期 | 学習内容 (単元) | | 到達目標 | |
| 1 | 1章 これからの生き方と家族 1節 生涯の生活設計 2節 家族・家庭と社会との かかわり 5章 食生活をつくる 1節 人の一生と食事 2節 栄養と食品 | | <ul style="list-style-type: none"> 生涯発達の視点に立って、乳幼児から高齢期までのライフステージの特徴と課題を見通し、その課題を他者と関わりながら達成し、生まれてから死ぬまで発達し続けていくという考え方を理解する。 自立した生活を営むために、生涯を見通しながら、様々な生活課題に対応して適切に意思決定し、責任をもって行動することが重要であることへの理解を深める。 日常の食生活を振り返り、健康や生活習慣に直結する食事について考える。 健康な生活を送るうえで必要な栄養素とそのおもな働きについて理解する。 | |
| 2 | 3節 食生活の安全のために 4節 食生活をデザインする 調理実習 7章 住生活をつくる 1節 人の一生と住まい | | <ul style="list-style-type: none"> 各食品の保存法について理解する。食品表示、栄養表示の内容を読み取り、身体状況に応じた食品を選択できるようにする。 健康の維持・増進、体の成長のために必要な食事摂取基準について理解する。 食品の選択・計量・器具の扱い、および包丁の使い方、野菜の切り方など調理の基本技術を習得する。 日本各地に見られる特徴的な住まいを比較し、住まいは、条件の異なる地域の気候や風土に応じてつくられたことを理解する。 | |
| 3 | 2節 住生活の計画と選択 3章 充実した生涯へ | | <ul style="list-style-type: none"> 日照・採光・通風・温度・遮音などの住環境が、健康な瀬くに大きな影響を与えることを理解し、衛生的な室内環境を整備するためには、どのような工夫が必要か考える。 生涯を見通して高齢期を捉えることができる。 高齢者の身体的特徴と心理的特徴の概要について理解する。 | |

| 教科・科目 | 対象学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|---------|--|--|--|-----------|
| 家庭・家庭総合 | 2 | 2 | 高等学校 家庭総合 持続可能な未来をつくる (第一学習社) | 家庭総合学習ノート |
| 目標 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| | 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。 | 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 | 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。 | |
| 評価 | <ul style="list-style-type: none"> 授業の課題の内容や定期考査などの結果、実習の様子から「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。 授業の課題や実習への取り組みから「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 | | | |
| 学期 | 学習内容 (単元) | 到達目標 | | |
| 1 | 6章 衣生活をつくる 1節 人の一生と被服 2節 被服材料と管理 3節 これからの衣生活 4節 被服の製作 | <ul style="list-style-type: none"> 乳幼児期、児童期、青年期、壮年期、高齢期ごとに、衣生活の留意点を学ぶ。 被服の劣化を防ぐためには、よい被服を選択すること、手入れをすることで適切に管理することが必要であることを理解する。 近年の消費行動の多様化・個性化が大量の死蔵品を生む要因となっていることを理解し、消費のあり方を考える。 被服製作に必要な基礎的な知識・技術を身につける。 | | |
| 2 | 4節 被服の製作 2章 次世代をはぐくむ 1節 子どもの発達 2節 子どもの生活 3節 子育ての支援と福祉 | (1学期から継続) <ul style="list-style-type: none"> 言語、認知、情緒、社会性などの発達の概要と、それらの発達が密接に関連していることを理解できるようにする 遊びが子どもの生活において重要であること、遊びを通して様々な心身の貼ったるが促されることを理解できるようにする。 社会環境の変化による人間関係の希薄化、自然と触れ合う経験の不足、育児不安や孤立感、保育所不足と待機児童の問題などを取り上げ、子育て支援の必要性について理解できるようにする。 | | |

| | | |
|---|--|---|
| 3 | 8章 経済生活をつくる 1節 私たちの暮らしと経済 2節 消費者問題を考える 3節 持続可能な社会を目指して 4章 ともに生きる | <ul style="list-style-type: none"> ・家庭の生活を支える収入と支出の運営など、家計の管理について理解する。 ・販売方法、支払い方法が多様であることを知り、購入時に適切な判断が必要であることを理解する。 ・持続可能な社会の実現のためには、私たち自身が環境に負荷を与えないように工夫していく必要性を理解する。 ・社会的制度、社会福祉の基本的な理念、ともに支え合って生きる社会の考え方について理解する。 |
|---|--|---|